

令和4年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:8月1日(月)

会場:川地コミュニティセンター

参加者数:21人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>・広島市から移住してきて、川地自治連合会の役員をしている。自治会を自分の気持ちを素直に話せるような場所にしたいと考えて、活動している。実際に行動することが重要であることから、他の役員の方と、地域の危険な場所などを確認して回った。子どもたちには、人の役に立つ喜びや、楽しく生きていけることを伝え、意欲を掻き立てていきたい。また、若い移住者を増やして、みんなで地域を盛り上げて、この川地地区から、小さな成功事例をつくり、世界中に自慢できるようなことをやりたい。</p> <p>・里山である三次市に魅力を感じ、夢をもって来た人々と一緒に暮らしている。地域では、草刈りや自治会活動などのボランティアが必要であるが、人の役に立つと同時に、物が買える、物々交換ができるように、ブロックチェーンを使った地域通貨の取組を準備している。</p> <p>・廃校の志和地小学校の利活用が課題となっているが、教育や文化、暮らし、政治、経済などについて、大人や子どもたちが学べるような場を作っていきたい。</p> <p>・市内の学校と連携して、特別活動や総合時間の中で私たちがファシリテーションをやっていきたい。自ら動いて、問題点をあぶり出した上で、住民の一人ひとりが笑顔で未来を想像して、楽しく会議ができるように、川地地区のために働きたい。</p>	<p>・行政と地域の皆さんと一緒に歩みを進めていくことが、より重要となる。人口減少の状況において、川地地区から、活動が広がっていくことは、行政側の大きな勇気となる。引き続き、感じたことや一緒に活動をされている皆さんが思われていることなど率直な意見をいただきたい。</p> <p>・令和4年3月に、どのような人を育てたいのかを示した三次市教育ビジョンをまとめた。スローガンは「みよし結芽人～幸輝心～」である。みんなのために、あるいは自分の自己実現のために、行動していく。さらに、その幸せ感と好奇心を持って学び、活動することで、輝き続ける人として、子どもだけではなく、市民一人ひとりが育ってもらいたい。このことが、誰もが幸せを実感できる持続可能なまちにつながる。そのような思いで小学校、中学校の校長が中心となって学校教育を実施しており、川地地区から取組を発信していただき、そして、様々な人たちとのつながりを作ってやっていただきたい。子どもたちが、自分の頭で考えて行動していくことが一番大事なことでありと思っている。</p>	
<p>・内水対策用の排水ポンプ設置や、秋町の大規模太陽光発電施設への各種協力に対して感謝している。</p> <p>・過疎高齢化への対応が課題である。20歳代・30歳代の女性に帰ってもらうための具体的な方法はあるのか。三次市でも、中心市街地へ人口が集中しているが、中山間地域は過疎ありきで進んでいるように感じる。</p> <p>この過疎の問題と学校給食調理場の統合は、一緒に考えて対応してもらいたかった。20代・30代の子育て世代は、教育に関心があり、地元で食育をしている学校ということも移住条件の一つではないか。サブセンターなどの機能を考えて欲しかった。過疎高齢化について、具体的にどうするのか。</p> <p>・具体的な対策を示して、安心して農業を続けられるようにしてほしい。市が農業をどういう方向に導いていくのか、薬用作物の栽培について成果と今後の展開を聞きたい。</p> <p>・鳥獣被害について、駆除班を整備して、定期的な点検等をしてもらう。また、積極的に取れるような免許制度を構築できないか。例えば、免許取得について市から助成をするなど、駆除班への積極的な支援はないのか。</p>	<p>・本市の高齢化率は36%を超えており、このような状況を打破するために挑戦している。65歳～75歳の皆さんは現役世代であり、地域で、今までの経験を発揮し、色々なところで活躍していただけるかが課題であると認識している。</p> <p>・コロナ禍で、東京一極集中に対する危険や地方の魅力がクローズアップされている。本市にしかできない取組をして、様々な人を呼び戻したい。加工や副業など工夫をしながら、生産から販売までのプロセスを担う若い農業事業者も出てきている。また、川地地区の農業法人は、様々な取組を実施して、それを地域の活力に結びつけている。薬用作物には大きな可能性があると感じている。実証段階であるが、市内各地の協力のもと、試験栽培をしている。この試験栽培がうまくいけば、医薬品メーカーと本契約ができる状況である。薬用作物の産地化は、中長期的な取組として、本市の新たな産業として育てていきたい。</p> <p>・鳥獣駆除班の皆さんと連携しながら、ICTを活用した柵の設置などの取組を行っている。若者や女性が狩猟免許を取得するなど、裾野は広がっている。性別を問わず、それぞれの強みを生かしながら地域に貢献し、地域が笑顔になるような取組につながる必要がある。駆除班の高齢化は課題であり、駆除する人数を確保するため、補助などの支援策も行っていく。</p>	
<p>三次市には美術館が4つあり、文化や芸術の水準が高いように思うが、今年度、県美展の応募作品受付と巡回展を取りやめられたと聞いた。これまで2年ほど休止状態であったので、予算がなくなったのか。来年は、三次市での取扱いを行ってほしい。今年、本市で取扱いがなかったため、作品を出すことをやめられた方もいる。このままだと、本市の文化水準が下がっていくのではないか。</p> <p>【市の回答後】 出展数が少なくなったから止めるということではなく、どうすれば増えるのか、どうしたら続けることができるのか、考えてほしい。</p>	<p>市内の4つの美術館では、多くの市民の方々に参加していただき、文化や芸術を盛り上げていただいている。教育委員会で県美展受付を行っていたが、出品数や来館者数が減少していたことから、今回、受付と巡回展を見直した。これまで準備されていた方々には、大変申し訳ないと思っている。しかし、決して、文化・芸術に対して後ろ向きではない。</p> <p>文化・芸術は、私たちの生活には大事なものである。具体的にどのような形で盛り上げていくことができるのか考えていく。</p>	<p>令和5年度は、新県美展応募作品受付・巡回展再開予定</p>

令和4年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:8月1日(月)

会場:川地コミュニティセンター

参加者数:21人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>圃場横の市道に、擁壁を立てており、田んぼの手前に鳥獣被害防止のフェンスを置いている。基礎がしっかりしておらず、支柱が市道側に倒れる。中山間事業等を活用して、3mの大型の擁壁を立てたが、非常に不安定である。そこで昨年、市担当課に擁壁の上の面に穴をあけて支柱を立てていいかを相談したが、駄目であった。市道のすぐ横に、コンクリートで固めて立てている地域もある。農業振興のため、擁壁の高いところや、設置しにくいところには、市道の擁壁を使ってもいいなどの対応してほしい。支柱を立てる条件を出してほしい。今年も、田んぼが全滅してしまうかもしれないので、早急な対応をお願いする。</p>	<p>市としては、様々な助成メニューを活用しながら、鳥獣被害対策を実施しているが、鹿や猪が学習をして、さらに被害が大きくなるという報告もある。ここで、擁壁に穴を掘ってもいいという即答はできない。今後も、鳥獣被害を軽減させるための対策を検討していく。</p>	<p>担当課から後日状況説明済</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が多い地域では、災害時の対策はどうするのか。若者が2、3人の高齢者を誘導しなければならず、限界が出てきている。 ・プライバシーの問題で、要支援者名簿を見ることができない。市が把握している人数と地元が認識している人数とで、大きな違いはないか。体調の状態や歩けない方の情報は、地元が詳しく把握している。 ・既に個別避難計画ができていたと考えていた。川地地区の防災士会では、地域ごとの避難を計画している。誰が要支援者か、漏れている人がいるかどうか、地域での確認ができない。日中は誰がサポートするのか、夜間は誰ができるのか、土日は誰ができるかなどの細部まで詰めなければ、正確な避難計画をつくれないうし、避難訓練もできない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市では、各地区における避難できない方の名簿を整理しているところである。これから、要支援者はどこに避難するのか、サポートが必要かなどの個別避難計画を作成する。スピード感を持って進めていきたい。 ・避難行動要支援者名簿は、拒否された方を除き、全て網羅している。介護度や障害者手帳の有無、施設の入居なども整理している。関係者と話をしながら、最終的に、自治連合会や自主防災組織から話を聞いた上で、個別避難計画を作成する。 ・地元の自主防災組織に個別避難計画を一度提供したが、名簿内容の修正等を精査するため、止まっている状況である。個別避難計画を作成する際は、福祉事業所や施設の協力を得て、最後は小さな常会単位まで落とし込んでいく。その上で、実際に支援をしていただく方にお渡しする。実情をよく理解されている、普段接している方と連携できるように努めていく。 	
<p>入院した際に、三次看護専門学校からの研修生から、職場環境の問題から、就職希望先は三次中央病院ではないと言っていた。定着率はどれぐらいか。働きたいと思うような環境の整備が必要である。現在、三次中央病院を新しくしようという機運がある中で、職場環境と労働環境の整備を両輪でやっていかなければ、人の定着は望めないと思う。</p>	<p>コロナによって、医療の尊さを実感した。医療関係者の皆さんが安心な医療を支えておられるが、看護師の離職率は全国的な課題となっており、二交代制が一番の課題であると指摘されている。そういった労働環境を改善していくことが、離職率の低下にも結びつくのではないかと考えている。今一度、看護師の皆さんの労働環境を調査して、地域医療を支えていただけるような環境にしていくことが課題であると認識している。引き続き、いじめを含めた、離職の原因を調査・分析した上で、対策を講じていきたい。</p>	
<p>色々な政策があるが、まちをつくるのは人の心である。私たちには不安があり、どうにもできないところもある。そこで、不安を解消するような思いやりのある回答を心がけていただけたら、私たちもエネルギーが沸いてくる。この川地地区を、命を育むまちにするために、みんなで頑張っていきたい。</p>		